

**WEEKLY SIGNAL**

2019年12月20日(金) 1505号

上田八木短資株式会社

**来週の市場とレート予想**

	12/23(月)	12/24(火)	12/25(水)	12/26(木)	12/27(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	△ 2,900	△ 3,000	△ 3,000	△ 4,000	△ 3,000
財政他	△ 13,500	△ 6,000	△ 1,000	△ 2,000	△ 3,000
資金需給	△ 16,400	△ 9,000	△ 4,000	△ 6,000	△ 6,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)				
オペ期日	国債補充供給 + 1,200 CP等買入 △ 300				共通担保(全店) △ 5,800
オペスタート		社債等買入 + 800			
(日本)	全産業活動指数(前月比)(10月) 景気先行CI指数(10月) 景気一致指数(10月)	日銀金融政策決定会合 議事要旨(10月30・31日分) 日銀営業毎旬報告 (12月20日現在) スーパーマーケット売上高 (前年比)(11月)	企業向けサービス価格指数 (前年比)(11月)	黒田日銀総裁、講演(経団連会館) 日銀、当面の長期国債等の 買入の運営について 住宅着工戸数(年率)(11月) 建設工事受注(前年比)(11月) 住宅着工件数(前年比)(11月)	東京CPI(前年比)(12月) 有効求人倍率(11月) 完全失業率(11月) 鉱工業生産(前月比)(11月) 小売売上高(前月比)(11月) 日銀金融政策決定会合における 主な意見(12月18・19日分)
(海外)	中 安倍首相、習国家主席と 首脳会談 米 新築住宅販売件数(11月) 米 耐久財受注(11月)	中 日中韓首脳会談	米 休場 中 安倍首相、李首相と二国間会談	米 新規失業保険申請件数 (12月21日終了週)	ECB経済報告

**【インターバンク市場】**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.060
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は、週初397兆7,500億円から始まり、19日まで横ばい圏で推移した。20日は国債の大量償還によって前営業日対比7兆3,700億円増加し、404兆2,700億円を越えた。無担保コールON物は、新積み期に入りビッドサイドが慎重な調達姿勢となったため、週を通して軟調な地合で推移した。同加重平均金利は、16日に△0.053%から始まったものの、週末にかけてレートが低下し、20日には△0.061%となった。ターム物は、年内エンドのショートタームを中心に△0.040~△0.020%の出合が見られた。18・19日に行われた日銀金融政策決定会合では金融政策運営の現状維持が決定された。併せて日銀は、「貸出増加支援資金供給の見直し」と「ETF貸付制度の導入」を発表した。来週の主な予定は黒田日銀総裁の講演(26日)、海外ではECB経済報告(27日)がある。

**【オープン市場】**

CP3M(a-1+)	△0.003 ~ 0.000
TDB 3M	△0.130 ~ △0.080
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

**<CP>**

今週の入札発行総額は約9,600億円で、週間償還額(約1兆2,400億円)を下回り償還超となった。5・10日発行や複数の業態からの大型発行案件が見られたものの、有利子負債の圧縮ニーズ等で期日償還となった案件が多かった。発行残高は、先週末の22兆2,105億円から19日時点では約21兆9,824億円となった模様。発行レートは、年内償還物がやや強含みとなり、年越え物は引き続きマイナス~0%近辺の出合いであった。来週の償還総額(12/23~12/27)は、1兆3,700億円程度となっており、年末日(30日)の償還額は2兆4千億円程度となっている。引き続き、四半期末決算での有利子負債の圧縮ニーズもあり、償還超が予想される。発行レートは、年越し物についてはマイナスから0%近辺でのレンジと思われる。25日に、CP等買入れオペが3,000億円でおアフェされる予定。

**<TDB>**

18日に行われた1Y物877回債(12/21償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1053%(前回債△0.1911%)、平均落札利回り△0.1172%(同△0.2000%)となった。また20日の3M物878回債(3/30償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.0893%(前回債△0.1154%)、平均落札利回り△0.1061%(同△0.1284%)となり、その後△0.105%で取引された。そのほかのセカンダリーでは、週央にかけて3M876回債(3/23償還)が△0.155%~△0.160%、同861回債(1/14償還)が△0.220%、6M875回債(6/10償還)が△0.150%、1Y877回債(12/21償還)が△0.115%~△0.123%のレンジで取引された。週末20日には3M874回債(3/16償還)が△0.140%、同876回債は△0.130%で出合いが見られた。来週のTDBの入札予定はなし。

**<レポ>**

足許GC取引は、概ね△0.10%~△0.085%で推移。短期3Mの発行があった23日受渡しの取引については後場にレートが上昇し、△0.05%近辺で取引された。SC取引は20年169回債が△0.2%台前半~△0.1%台後半、10年345回債・346回債は△0.1%台前半~前半で取引された。その他、2年405・406回債、5年137~141回債、10年336~356回債、30年59・63・64回債、40年12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。